

オール北海道で目指す 目標

小学校
国語編

本道の 小学校国語 調査結果

1 本道の課題となっている設問

領域	年度・設問	設問の概要	全国との差
話・聞	H22 B3 二	話し手が聞き手に問いかけるよさについての説明を書く 作戦カードをもとに、チームの攻め方を説明する インタビューのメモの工夫を選択する	- 13.9
	H21 B4 二イ		- 5.0
	H19 A6		- 5.4
書くこと	H23 B2 二	提案に対する相手の意見を取り下げて、自分の考えや理由を書く 「わるいこと」という場面の様子を捉え、おかあさんグマの心情を書く 「図書館だより」のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを書く 「図書館だより」の内容を案内状に書き換える（行事の内容） 古紙の再生利用が重要な話題となってきた理由を書く 古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く ゴミを減らすための取組を考えて80字以上120字以内で書く	※19.2
	H20 B2 二		- 7.0
	H20 B3 二		- 7.3
	H20 B3 三(2)		- 5.7
	H19 B2 二		- 5.4
	H19 B2 三(1)		- 4.9
読むこと	H23 B3 一イ	二つの伝記を比べて読み、登場人物の心情を表している言葉や文を抜き出して書く 二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を適切に選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする 説明的な文章の中に入る適切な言葉を選択する 物語を読んで、指示された部分についてのあらすじを書く 物語を読んで思ったことや考えたことと、その理由を書く 筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く 筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く 「わるいこと」という場面の様子を捉え、おかあさんグマの心情を書く 「図書館だより」のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを書く 古紙の再生利用が重要な話題となってきた理由を書く 古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く ゴミを減らすための取組を考えて80字以上120字以内で書く	※17.5
	H23 B3 二ウ		※26.4
	H22 B2 エ		- 6.3
	H22 A2		- 8.4
	H22 B2 一(1)		- 13.5
	H22 B2 二(2)		- 5.1
	H21 B3 二(1)		- 7.7
	H21 B3 二(2)		- 7.0
	H20 B2 二		- 7.3
	H20 B3 二		- 5.4
	H19 B2 二		- 4.9
	H19 B2 三(1)		- 9.3
言語事項	H23 A1 二(2)	漢字を書く（カラスの数がひじょうに多い） 主語を置き換えて記事の下書きを書き直す 四つの言葉の中から国語辞典に最初に出てくる言葉を選択する 提案に対する相手の意見を取り下げて、自分の考えと理由を書く 漢字を書く（ひさしぶりにおじさんに会う） 物語を読んで、指示された部分についてのあらすじを書く 作戦カードをもとに、チームの攻め方を説明する 漢字を書く（重い石をはこぶ） 漢字を書く（ボールをなげる） 漢字を書く（かぜをよぼうする） 漢字を書く（駅まで） 歩いておうふうする） 漢字を書く（先生にそうだんする） 漢字を書く（魚をやく）	※53.3
	H23 A5		※35.7
	H23 A8 一		※56.6
	H23 B2 二		※19.2
	H22 A1 二(1)		- 7.0
	H22 B2 一(1)		- 8.4
	H21 B4 二イ		- 5.0
	H21 A1 二(3)		- 8.2
	H20 A1 一(1)		- 7.6
	H20 A1 二(2)		- 9.4
	H20 A1 二(3)		- 12.5
	H19 A1 二(2)		- 8.6
	H19 A1 二(3)		- 9.7

※ H23 の設問は、全国との比較ができないため、平均正答率を掲載している。

☆ 上記の課題となっている設問から、今後の学習の基盤として重要な学習内容などを「重点的な取組が必要な学習内容など」として整理しました。

2 重点的な取組が必要な学習内容など

- 言葉の意味や使い方を理解し、相手や場などに応じて、適切に言葉を使うこと
- 国語辞典を利用して語句を調べること
- 漢字を正しく理解し、文脈に沿って適切に活用すること
- 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読んだり調べたりして分かった事実や理由を明確にして、自分の考えを効果的に書くこと
- 複数の条件を満たして分かりやすく表現すること

☆ 「重点的な取組が必要な学習内容など」の確実な定着のために、今後、北海道として迅速に定着を図る必要がある学習内容を分かりやすく「オール北海道で目指す目標」として次のように決めました。

3 オール北海道で目指す目標の設定

まずは、これから

第1期 国語「書くこと」の領域【平成24年3月～平成24年7月】

☆ **決められた字数で書くことができるようにしましょう。** ☆

- ・全ての子どもが、各学年において「字数や使う言葉などの条件に応じて書くことができるようにする」ために、指導事項を確認し、言語活動を通して、学習指導要領の内容が確実に身に付くよう授業改善を図りましょう。

授業改善のための各学年の指導のポイント

【各学年において指導する学習内容を確認しましょう】

- 「B 書くこと」における「記述」に関する指導事項

第1学年及び第2学年

- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと

第3学年及び第4学年

- 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと
- 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと

第5学年及び第6学年

- 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと

【各学年において指導方法を工夫しましょう】

◇全校としての取組◇

- 30字、60字、100字、120字、200字など、様々な字数のワークシートや原稿用紙を準備し、書く活動において活用する。
- 主語と述語の関係など文のつながりが分かりやすいか、学習した漢字を正しく使っているかなど、書いたものを振り返りよりよい表現に書き直す習慣を付ける。
- 国語辞典や漢字辞典を積極的に利用できるような環境や機会を充実する。

◇言語活動の充実◇

第1学年及び第2学年

- ・ お話（続き話など）
- ・ 詩
- ・ 発見カード
- ・ 絵日記（「先生あのね」）
- ・ 手紙

第3学年及び第4学年

- ・ 物語や詩
- ・ 報告する文章や学級新聞
- ・ 収集した資料を使い説明する文章
- ・ 依頼状、案内状、礼状

第5学年及び第6学年

- ・ 詩や短歌、俳句、物語、随筆
- ・ 意見を記述した文章や活動を報告した文章
- ・ 推薦書や宣伝文、ポスター、案内のための小冊子

* 参考：「学習指導要領解説国語編」言語活動例から

- 道教委では、平成24年度の全国学力・学習状況調査等から、「オール北海道で目指す目標」の定着状況を検証するなどして、新たに「重点的な取組が必要な学習内容など」を明確にします。

第2期 国語「読むこと（説明的な文章）」の領域【平成24年8月～平成25年1月】

国語辞典を利用して 語句を調べる

Follow-up A

■ 第3学年及び第4学年

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（言葉の特徴やきまりに関する事項）

1 課題となる問題を分析しましょう

⑧ 国語辞典では、言葉が五十音順に並んでいます。また、形が変わる言葉は、言い切りの形で出ています。次の問いに答えましょう。

二 「明日の試合にそなえて早くねる」の中の——線部の言葉について調べます。国語辞典では、どのような言葉にして調べるとよいですか。ひらがな四文字で書きましょう。

<出題のねらい>

この問題は、国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解することができるかどうかをみるものです。

ここでは、国語辞典を利用して語句を調べる際には、語形が変わる語句については、終止形に変えることが求められています。

<正 答> そなえる

2 指導内容を確認しましょう

*学習指導要領国語（平成20年告示）から

【第3学年及び第4学年】

(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

【第5学年及び第6学年】

(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

【中学校第1学年】

(イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項（カ）辞書の利用に関する指導

・国語辞典や漢字辞典などを利用して調べる習慣を付けることの重要性を考え、学習内容が小学校では中学年の指導内容として、まとめて示されています。

3 指導のポイントを明らかにしましょう

☆ 辞書を利用する能力や態度を育て、習慣を付けさせるためには、中学年で十分に指導するとともに、それを踏まえ、日常生活の中で積極的に辞書を利用できる言語環境をつくりましょう。

第3学年及び第4学年では

- 国語辞典の全体の仕組みや構成について理解できるようにする
- ・実際に国語辞典を利用して語句の配列を確認することができるように指導する。
- 辞書を積極的に利用する習慣を付けるようにする
- ・いつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境を整備する。
- ・調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用できるように指導する。

第5学年及び第6学年では

- 語句の構成や変化を理解できるようにする
- ・接頭語や接尾語、複合語などを含めた語句の構成や変化について、意味とのかかわりから理解できるように指導する。
- 語句の由来などに関心をもつことができるようにする
- ・語源を調べたり、和語、漢語、外来語などの区別について関心をもったりできるように指導する。

中学校第1学年では

- 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意することができるようにする
- ・語句の文脈上の意味について、辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて文脈において具体的かつ個別的にとらえることができるように指導する。
- ・辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化することができるように指導する。

表現の効果を考えて 書き換える

Follow-up A

■第5学年及び第6学年
「B 書くこと」(「推敲」に関する指導事項)

1 課題となる問題を分析しましょう

⑤ 次は、新聞委員の北川さんが「一年生をむかえる会」の様子を伝えた、学校新聞の記事の下書きの一部です。――部を「一年生が」を主語にして書きかえます。あとの□の中に入るふさわしい内容を、意味を変えないようにして書きましょう。

【北川さんの下書きの一部】

元気いっぱい的一年生 みんなの仲間入り！
四月十二日、きれいにかざった体育館で「一年生をむかえる会」がありました。進行係の合図のあと、六年生が、一年生の手を引いて、体育館に入場してきました。体育館いっぱいにひびきわたるたくさんのほく手。九十二人の一年生は、みんなにこにこ顔。
～(下書きが続く)～

一年生が、□、体育館に入場してきました。

<出題のねらい>

この問題は、目的や意図に応じ、表現の効果を考えて書き換えることができるかどうかをみるものです。

ここでは、前後の文脈をとらえ、一年生と六年生との関係を適切にとらえながら、一年生を主語にした受動態の文に書き換えることが求められています。

<正答例>

六年生に手を引かれて

2 指導内容を確認しましょう

*学習指導要領国語(平成20年告示)から

【第3学年及び第4学年】
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。

【第5学年及び第6学年】
オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

【中学校第1学年】
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。

オ 推敲に関する指導事項

・第3学年及び第4学年のどのようなところに注意して推敲したかという学習を生かして、読み手の立場から文章を客観的に評価するなどして表現の効果などを確かめたり、工夫したりすることについて定着を図ります。

3 指導のポイントを明らかにしましょう

☆ 相手や目的に応じているか、自分の考えを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、相手が読んで理解しやすい表現であるかなどの観点から表現を検討できるようにしましょう。

第3学年及び第4学年では
○文章の間違いを正すことができるようにする
・主語と述語及び修飾と被修飾の関係の明確さ、長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方のほかに、敬体と常体、断定や推量、疑問などの文末表現の使い方などに注意することを指導する。
○よりよい表現に書き直すことができるようにする
・相手や目的に応じているか自分の考えを明確に表しているかなどといった観点から、表現を検討するように指導する。

第5学年及び第6学年では
○表現の効果を確かめたり工夫したりすることができるようにする
・中心となる事柄が読み手に明確に伝わっているか、題材のとらえ方、題材の集め方や選び方は適切かなどについて検討する場面を設定して指導する。
○主体と対象との関係を明確にすることができるようにする
・事実や出来事を説明したり、見聞や体験を報告したりする文章を書く場合には、誰の目を通し、誰の行為や考えを中心に書くのかを明確にし、主体と対象との関係を明確にするように指導する。

中学校第1学年では
○表記や語句の用法を確かめることができるようにする
・文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切か、語句の選び方や使い方が的確であるかなどをみるように指導する。
○叙述の仕方などを確かめることができるようにする
・文や段落の長さ及び文や段落の接続の関係などが適切であるかなどをみるように指導する。

新聞記事を効果的に読む

Follow-up A

■第5学年及び第6学年
「C 読むこと」(効果的な読み方や目的に応じた読書に関する指導事項)

1 課題となる問題を分析しましょう

⑥ 次は、小池さんが住む糸野市で行われた、「図書祭り」について書かれた新聞の記事です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。



二 小池さんは、この記事を読んで、糸野市立図書館において問題となっている事実が示されていることに気がきました。それは、どのような事実ですか。本文中の言葉を使って書きましょう。

<出題のねらい>

この問題は、必要な情報を得るために、新聞記事を効果的に読むことができるかどうかをみるものです。

ここでは、本文の中から問題となっている事実を取り出すために、問題となっている事実が企画者へのインタビューの中に含まれていることをとらえることが求められています。

<正 答>

「年々、市立図書館の利用者数が少なくなっていること。」
Cの中から事実と意見とを区別し、企画者へのインタビューの内容に着目する必要があります。

2 指導内容を確認しましょう

*学習指導要領国語(平成20年告示)から

【第3学年及び第4学年】

カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

【第5学年及び第6学年】

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

【中学校第1学年】

カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

「イ 効果的な読み方」及び「カ 目的に応じた読書」に関する指導事項

・第3学年及び第4学年の目的に応じた読書の経験や読書範囲の広がりを生かして、必要な情報を得るための効果的な読み方について定着を図ります。

3 指導のポイントを明らかにしましょう

☆ 目的に応じて文章の概要を読み取ったり、詳細な情報を取り出したりするなど、効果的な読み方を工夫することができるようにしましょう。

第3学年及び第4学年では

- 必要な情報を得るために読んだ内容に関連したほかの本や文章などを読むことができるようにする
- ・疑問や課題を解決するために、関連する様々な本や文章を併せて読むことができるように指導する。
- 多様な目的に応じていろいろな分野の本や文章を読むことができるようにする
- ・楽しむことや調べることといった目的のほか、読みたい内容に絞って読む、書き手を絞って読むなど、いろいろな分野の本や文章を読むことができるように指導する。

第5学年及び第6学年では

- 新聞記事の構成を理解し、必要な情報を取り出すことができるようにする
- ・新聞記事を教材として取り上げ、目的に応じて記事の概要を押さえ、詳細な情報を得ることができるように指導する。
- 新聞の編集の仕方や記事の書き方に注意して読むことができるようにする
- ・新聞の特徴を押さえ、記事と記事とを関係付けて読み、書き手が読者に伝えたいことを推論することができるように指導する。
- 目的に応じて新聞記事を活用することができるようにする
- ・テーマや題材に合わせて複数の新聞記事を比べて読み、書き手の立場や意見の違いなどについて検討することができるように指導する。

中学校第1学年では

- 目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにする
- ・文章の中で必要な部分に印を付したり、必要な部分を抜き書きしたりしながら読み進めることができるように指導する。
- 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付けることができるようにする
- ・必要な情報の有無について本の表題や目次等から判断したり、新聞の紙面構成等に基づいて必要な部分を探して読んだりするなど、資料の特性を生かした読み方ができるように指導する。

理由を明確にして 自分の考えを書く

Follow-up B

第5学年及び第6学年 「B 書くこと」(「記述」に関する指導事項)
第3学年及び第4学年 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

1 課題となる問題を分析しましょう

2 児童会の委員は、【資料3】の「イ」の中に【意見】に対する考えを書きました。「イ」の中に入るふさわしい内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)
【資料2】の【意見】に対する【委員の考え】の□の中の内容をもとにして書くこと。
二つの文にして書くこと。一つめは、「しかし(文のはじめ)～します(文の終わり)」という文の形にすること。
二つの文を合わせて、80字以上、100字以内にまとめて書くこと。

平均正答率 34.8%
無解答率 12.8%

<出題のねらい>
この問題は、自分の考えと相手の考えとを比較し、相手の考えを取り下げ、改めて自分の考えを相手に理解できるように理由を明確にして書くことができるかどうかをみるものです。
ここでは学級から出た意見を採用せず、児童会の委員が当初の案を再提案する場面が設定されており、再提案については、相手の考えを取り下げ理由を明確にして書くことが求められています。

<正答例>
しかし、下校の時間にあいさつを呼びかける案は取り下げず、登校の時間にだけ取り組むことにします。それは、下校の時間が学年によってちがい、委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしいからです。

<正答の条件>
一つめの文で、次の二つの内容に触れている。
a 下校の時間は取り下げないことにする。
b 登校の時間は提案のとおりにする。
二つめの文で、次の二つの内容に触れている。
c 下校の時間が学年によってちがう。
d 委員がそのたびに出入口に立つことはむずかしい。
二つの文で書き、一つめの文は「しかし、～します。」、二つめの文は「それは、～からです。」という文の形で書いている。
二つの文を合わせて、80字以上、100字以内で書いている。

【主な誤答例】
二つめの文の文末を「～からです。」という文の形で書いていない誤答が13.3%あり、二つの文にして書くという条件を満たしていない誤答が見られた。

【調査結果から見られる課題】

自分の考えを伝えるために、考えの中心となる文とその理由となる文とのつながりを考えながら論理的に書くこと
字数や時間などの条件に応じて書くこと

2 指導内容を確認しましょう

*学習指導要領国語(平成20年告示)から

【第3学年及び第4学年】
ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
(ク) 指示語や接続語が果たす文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

【第5学年及び第6学年】
ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

【中学校第1学年】
ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

「記述」に関する指導

・中学年の書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く学習を生かして、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることについて定着を図ります。

3 指導のポイントを明らかにしましょう

目的や必要に応じて、書こうとすることの中心となる内容や段落に対して、原因や理由を挙げたり、分かりやすく説明するために事例を挙げたりしながら書くことができるようにしましょう。

系統性や学年の段階に応じた指導方法の工夫

第3学年及び第4学年では書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて記述することができるようにする。

- 文章全体を通して中心となる内容を明確に記述したり、段落相互の関係から見て中心となる段落を明確に位置付けたり、各段落の内容の中心を明確に記述したりすることができるように指導する。
- 「なぜかという～」「その理由は～」「～のためである」「例えば～」「事例を挙げると～」「～などが当たる」などの表現を用いて書くことができるように指導する。

第5学年及び第6学年では相手の立場を踏まえながら自分の考えを書くことができるようにする。

- 自分の立場からの主張だけでなく、相手の立場からの主張も踏まえて説得できるように工夫して書くことができるように指導する。
- 自分と相手の考えの共通点や相違点を明確にしながら、必要に応じ、相手の考えのよさを取り入れて自分の考えを効果的に書くことができるように指導する。
- メモを活用して書く内容を整理することができるようにする。
- 自分の考えを書くために必要な材料を集めるためのメモや、集めた材料を構造的に整理するためのメモなどを工夫し、それらのメモを構成の段階や記述の段階などに活用できるように指導する。

中学校第1学年では根拠を明確にして書くことができるようにする。

- 文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が明確に書かれているかどうかを吟味することができるように指導する。
- 接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現を工夫することができるように指導する。

4 言語活動を充実させましょう

様々な条件や制約に対応しながら、理由を明確にして自分の考えを書くことができるよう、相手意識や目的意識など重視し、発達の段階に応じた言語活動を充実させることが大切です。

重視する言語活動例

第3学年及び第4学年では報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。

第5学年及び第6学年随筆などを書くこと。意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

中学校第1学年関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

言語活動の充実のために

第3学年及び第4学年では児童自身が課題意識をもち、保護者や地域の人々などの大人から、同学年・異学年の友達などの相手を設定したり、書いた文章を相手がどのように受け止めるかなどについて考えることができるように指導する。書く目的としては、伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど、具体的な生活の中で必要となるものを取り上げるように指導する。

第5学年及び第6学年では小学校における書くことのまともとして、書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、考えたことを十分に反映させ、文章全体の構成を考えながら適切に書くことができるように指導する。書くときに想定する相手には、特定の相手の場合と不特定の相手の場合とがあり、特定の相手の場合には、相手の意図を明確に把握するようにするとともに、不特定の相手の場合には、読者によってちがった受け止め方があることなどにも気付くように指導する。

中学校第1学年だれに向けて何のために書くのかなどという意識をもち、目的や意図に沿うように工夫して書くことができるように指導する。

相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じた言語活動を行うことが大切です。



5 課題の解決に向けた授業改善を行いましょ

指導内容や指導のポイントなどを踏まえ、次のような授業アイデア例を参考にすることで、理由を明確にして自分の考えを書くことができるようにしましょう。

指導のねらい 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く。

調査問題の概要

- B₂一 提案に対する相手の意見を取り入れて、自分の考えについて理由を書く。
- B₂二 提案に対する相手の意見を取り下げて、自分の考えと理由を書く。

平成23年度全国学力調査問題にかかわる「授業アイデア例」(小学校国語)参照

例1は出題した内容を取り立てて指導する例 例2は出題した趣旨を踏まえて単元化して指導する例

例1 自分の提案の理由を明確にして、相手が納得できるような提案文を書く。

1 給食の時間を楽しく過ごすための提案とその理由を各自考え、それらを区別しながらカードに書く。

2 各自が書いたカードをグループで読み合い、互いの考えの共通点や相違点を話し合う。

3 各自が書いた理由のカードを三つの観点に当てはめ、よりよい理由になるように書き換えたり、書き足したりする。

4 理由を明確に表す際の表現について話し合った上で、200字程度の提案文を書き、相互評価する。

【AさんとBさんが書いた提案とその理由のカード】

(Aさんの考え)

【提案】 たてわり近に分かれ、給食をいっしょに食べる。

(Bさんの考え)

【提案】 給食の時間に音楽を流す。

【理由①】 もっと下級生と交流したいと答えた6年生は約8割いる。

【理由②】 いっしょに給食を食べることで、下級生とも仲よくなる。

【理由ア】 音楽が流れていたときに会話がはずんだことがあった。

【理由イ】 音楽を聞くことが好きと答えた6年生は約7割いる。

【理由の三つの観点】

- 【1】 調査(データ)に基づくものか。 ……【理由①・イ】
- 【2】 体験(エピソード)に基づくものか。 ……【理由ア】
- 【3】 目的達成により、全体に効果をもたらすものか。 ……【理由②】

【理由を明確に表す際の表現の例】

一つめの理由は、～調査によるものである。 …… 上記【1】と関連
 二つめの理由は、～体験に基づいている。 …… 上記【2】と関連
 三つめの理由は、～と考えるからである。 …… 上記【3】と関連
 *複数の理由を組み合わせて用いるとより効果的です。

教師

例2 自分の提案に対する他者の質問を取り入れ、相手が納得できるような提案文を書く。

第一次

- 学級文庫の利用についての問題点を話し合う。
- 学習課題「よりよい学級文庫にするために相手が納得できる提案文を書こう」を設定し、学習計画を立てる。

第二次

- よりよい学級文庫にするための考えを各自ノートに200字程度で書く。
- 書いたものをグループで交流し、一人一人の考えに対して、疑問に思ったことなどを質問し合う。
- グループで出された質問を「提案の中で踏まえておきたい三つのポイント」に当てはめて整理する。

第三次

- 「他者からの質問を取り入れる際の表現の例」を用いて、400字程度の提案文に書き広げ、相互評価する。

【Aさんが最初に書いた提案文(例)】

みんなが家からおすすめの本を持ってきて、学級文庫の本の入れ替えをしたらいいと思います。友達がおすすめの本であれば、読んでみようという気になります。身近にある学級文庫を利用する人が増えると思うからです。
 ↓(提案文が続く)↓

【グループで出された質問の例】

- ① ページが破れたり、本が汚れたりしてしまふことはありますか。
- ② 一人何冊くらい持ってくることを考えていますか。
- ③ みんなが持っている本を置くスペースはありますか。
- ④ 実際におすすめの本を持っていない人はどうしますか。
- ⑤ まんがなど、どんな種類の本でもよいと考えていますか。

【提案の中で踏まえておきたい三つのポイント】

- ① 提案には、問題となりそうな点はないか。
- ② (右記のグループで出された質問①)
- ③ (右記のグループで出された質問②・⑤)
- ④ 提案は、実現の可能性が高く、効果を上げるにすることができそうか。
- ⑤ (右記のグループで出された質問③・④)

【Aさんが書き広げた提案文(例)】

わたしは、学級文庫をよりよいものにするために、……を提案します。なぜなら、……と考えるからです。具体的には、……とりたいと思います。しかし、この案に対して……と考える人もいます。……に対しては、……と考えます。……(提案文が続く)……

【他者からの質問を取り入れる際の表現の例】

- 確かに「～」という考えもあるでしょう。
- ～と考える人もいます。……に対しては……

教師

留意点

小学校学習指導要領解説国語編(平成20年告示)では、「B書くこと」の指導事項として「交流に関する指導事項」を設定しています。取材の段階から、構成、記述、推敲、交流の一連の過程を重視した指導が大切です。特に、交流は指導の最後に位置付けるだけでなく、それぞれの段階でよい点や改善点を見つけて感想を伝えたり、意見を述べ合ったりすることを全学年を通じて重視していくことが大切です。